

歴史的価値 評価された

西脇市・片山象三市長の話 戦前より受け継がれ、地域住民の思い出が詰まった校舎の歴史的価値が評価されたことは誇らしい。西脇小は横尾忠則氏ら、西脇市を代表する人材を数多く輩出してきた。今後も校舎として大切に使用しながら、重要文化財として後世に受け継いでいきたい。

新旧のもの うまく融合

西脇小・和田拓也校長の話 私自身も西脇小の卒業生。保存改修により、きれいで過ごしやすくなり、建築時そのままのものと新しいものがうまく融合されているように感じる。伝統を支えてくれた地域や卒業生への感謝を大切に、日々の学校生活を過ごしていきたい。

まちの誇り
喜びの声



改修基本計画の策定に携わった神戸大の足立裕司名誉教授(右)と和田拓也校長

卒業生や地域住民らの愛着が染み込んだ学びやに吉報が届いた。21日、西脇小学校(西脇市西脇)の木造校舎が国指定重要文化財に答申され、保存活動に尽力してきた市民や専門家らは喜びに沸いた。和洋のデザインが巧

みに織り交ぜられた校舎は老朽化などの理由から、取り壊しの危機にも直面したが、市民の熱意で存続。「これからも地域のシンボルに」。関係者は万感の思いを口にする。

(25面参照)

西脇小木造校舎、国重要文化財指定へ

取り壊し危機越え吉報

存続尽力 市民沸く

同校の木造校舎3棟は、地元出身の建築家内藤克雄さん(故人)によって1934〜36年に建設された。屋根の勾配が途中で変わる「腰折れ屋根」の車寄せをはじめ、上品な洋風建築の意匠がちりばめられている。北播磨を代表する近代建築として映画のロケ地に使用され、昨年10月にはグッドデザイン賞、12月には県の「人間サイズのまちづくり賞」の知事賞に輝いた。



国の重要文化財に答申された西脇小学校の木造校舎=いずれも西脇市西脇



今も学びやとして使用されている木造校舎

老朽化による耐震性への懸念から、市などが取り壊しの方針を示したのは2013年。鉄筋コンクリートで新築する案に対し、卒業生や市民の一部が反対の声を上げ、「西脇小学校の木造校舎を想う会」を立ち上げた。

メンバーの村上純子さん(52)は13年当時、同校に息子を通わせる保護者だった。「いすの脚にテニスボールを履かせて床を傷つけないようにするなど、古い物を大切にしている価値観が校舎を通じて学ばれていた」。取り壊しの方針を神戸新聞の報道で知り、古き良き校舎を残そうと、会に名を連ねた。

会はOBで絵本作家の吉司名誉教授は重文指定答申の報を受けて同校を訪問。児童が元気に駆け回る様子を満ちげに眺めた。

足立名誉教授は教育環境と美観のバランスに最も心を砕いたといい、「古い姿を残しながら新しいニーズに応えることができた。僕たちが残したかったのは記念館ではなく、子どもたちの『母校』なのです」と目を細めた。

(伊田雄馬)

21 わがまち

北播

西脇小・木造校舎、国重文に

国の文化審議会（佐藤信会長）は21日、昭和初期に建てられた西脇市立西脇小学校の木造校舎など、7件の建造物を国重要文化財に指定するよう秋生田光一文部科学大臣に答申した。同校舎は学校建築の発展過

文化審答申

1934年建築、現役校舎で3例目

指定名は「旧西脇尋常高等小学校」。1934（昭和9）年に建てられた木造2階建て延べ約650平方



国の重要文化財に答申された西脇小学校の木造校舎（西脇市西脇小）

程を示す重要な作例とされ、老朽化で一時は取り壊しも検討されたが、市民の声を受けて保存に転換。現役の校舎である点も評価された。

（古根川淳也、伊田雄馬）

の第1校舎と、37（同12）年築でほぼ同規模の第2、第3校舎の計3棟が指定対象となる。

設計は北播地域を中心に活躍した建築家の内藤克雄で、北側に廊下、南側に教室を配置し、当時の文部省の学校設計基準に準じた典型的な形式とされる。柱や梁の木組みを見せる華やかな洋風デザインが用いられ、播州織で栄えた西脇の財政力を反映しているという。2008年に兵庫県景観形成重要建造物に指定された。

老朽化に伴い、13年に西脇市が取り壊しを検討したもの、住民や卒業生から保存を求める声が上がリ方針を転換。バリアフリー化や耐震補強を施す改修工事を19年までに完了させた。同校舎は市や県の文化財に指定されておらず、いき

代々木競技場など7件

重文指定建築 旧松坂屋大阪店も

なり国の指定を受けるのは極めて異例。県教育委員会によると、文化財建造物を使いながら保存するという

文化審議会は、1964年の東京五輪を象徴する建造物の一つで、丹下健三氏



国の方針と合致、改修で校舎を将来に残す道筋ができたことも評価されたという。現役校舎の重文指定は全国3例目で、校舎の使用に制約はない。

県内の国重文の建造物は110件目。13年、同校舎取り壊しの検討を受けて発足した「西脇小学校の木造校舎を想う会」代表の前川貫治さん（73）は「手探りで始めた保存活動が実を結び、感無量」と喜んだ。

の名建築として知られる代々木競技場（東京都渋谷区）も重要文化財に指定するよ



大阪市の旧松坂屋大阪店（竹中工務店提供）

東京都渋谷区の代々木競技場第一体育館（左）と第二体育館（独立行政法人日本スポーツ振興センター提供）

う答申した。代々木競技場は今回の東京五輪・パリオリンピックでも会場となる。

代々木競技場は第一体育館と第二体育館が指定される。第一体育館は二つの半円形の屋根を組み合わせた優美な外観が目を引く。第二体育館は円すい状の天井が特徴だ。64年大会では水泳やバスケットボールが行われた。64年完成で、59年の国立西洋美術館本館（東京都台東区）を抜いて最も築年数の浅い建造物の重要文化財となる。

答申は、今は高島屋東別館となっている旧松坂屋大阪店（大阪市）などの指定も求めた。近く答申通り指定され、建造物の重要文化財は2530件（うち国宝228件）となる。

文化審議会は、豪雪地に発展した宿場町の風情が残る福井県南越前町の今庄宿など3地区の重要伝統的建造物群保存地区選定も答申した。保存地区は計126となる。

文化審議会の答申内容

（かっこ内は所在地）

【重要文化財の新指定】木村産業研究所（青森県弘前市）▽代々木競技場第一体育館、第二体育館（東京都渋谷区）▽御前崎灯台（

ど1基1棟（静岡県御前崎市）▽長命寺三仏堂など2棟（滋賀県近江八幡市）▽第一大戸川橋梁（滋賀県甲賀市）▽旧松坂屋大阪店大阪店（大阪市）▽旧西脇尋常高等小学校第一校舎など3棟（西脇市）

西脇小校舎 国重文に

国の文化審議会が21日に文部科学相へ行った答申で、県内からは、西脇市の旧西脇尋常高等小学校校舎が、国の重要文化財に指定される見通しとなった。校舎は現在も西脇市立西脇小として使われており、指定を受ける現役の校舎は全国で3例目。審議会では「昭和初期の木造学校建築を良好に維持している」と評価された。国重要文化財の建造物は県内で110件目となる。(畑夏月)

文化審答申 良好に維持 評価



現役の小学校として使われている校舎の廊下。足立裕司さん撮影

県教委によると、指定を受ける校舎は、1934～37年にかけて建てられた3棟。いずれも木造2階建てで、3棟を並列させる配置は、当時の典型的な小学校校舎の形式という。3棟をつなぐ渡り廊下や正門も付属施設として指定される。

窓や柱の形状を外壁に生かした「スティック・スタイル」と呼ばれる意匠を基調とした洋風建築。小野市の建築家・内藤克雄氏が、地場産業の播州織でにぎわう街の発展を見越し、当時の児童数700人を上回

昭和初期建築の3棟

西脇市の旧西脇尋常高等小学校。3棟の校舎が並列する配置が特徴的という＝西脇市提供



る2000人が学べるよう設計した。美術家横尾忠則さんの母校としても知られている。

校舎は実写映画「火垂るの墓」などのロケ地にもなり、県が2008年に景観形成重要建造物に指定した。ところがそ

の後の耐震診断で倒壊の危険性が指摘され、市が13年に鉄筋校舎に建て替える方針を表明。これに対し、地元住民や卒業生から保存を求める声が上がった。

市は学識経験者らでつくる

第三者委員会「西脇小学校校舎基本計画検討委員会」を設置し、建て替えの是非を検討。計8回の議論を経て「保存改修を行い、引き続き、校舎として利用すべきだ」と答申したことを受け、市が方針を撤回し、耐震補強をした上で3棟とも存続させた。

第三者委員会の委員長を務めた足立裕司・神戸大名誉教授(近代建築史)は「火災や地震、台風に弱いとされてきた木造校舎の弱点を補い、現在のニーズに合わせることができた好事例。各地で保存に取り組まれている人々の参考になればいい」とコメントした。

自身も卒業生の和田拓也校長は「校舎は建築時のものと新しいものが融合されている。児童と一緒に誇りに思う気持ちと、伝統を支えてくれた人たちへの感謝の気持ちを大切に過ごしたい」とのコメントを出した。

現役校舎 国重文へ

全国3例目 昭和初期の洋風木造

西脇小

国の文化審議会は21日、西脇市立西脇小学校(同市西脇)の第一・三校舎の計3棟を重要文化財(建造物)に指定するよう答申した。昭和初期の洋風木造校舎で2013年に取り壊しが決まったが、市民や卒業生の声で保存・改修された。指定されれば現役校舎としては県内初、全国で3例目となる。地元は「地域や子どもたちの誇りになる」と喜んでいる。【井上元宏】

文化 審答申



3棟は西脇尋常高等小学校の校舎として、1934年に第一校舎が、3年後に第二、三校舎が建てられた。各棟とも木造2階建てで、延べ床面積は624~645平方メートル。第一校舎の南正面中央には腰折れ屋根の車寄せがあり、2階部分は半切妻造の屋根とゲーブル(妻壁)で洋風の意匠をこらす。壁も平板

重要文化財に指定するよう答申された西脇小の木造校舎―西脇市提供

や波形のスレートを縦横に張り、変化をつけている。校舎は現代と同じように北側に廊下、日当たりの良い南側に教室が配置されている。文化審議会では昭和初期の木造学校建築の典型的な姿を良好に維持していると評価された。

校舎の建設時、西脇市は糸を先に染めてから柄を織る「播州織」の生産拠点として急成長を遂げていた。700人程度だった児童数の増加を見越した形で校舎は建築され、ピークの58年には平屋校舎も含め2000人超の学びやとなった。卒業生には、美術家の横尾忠則さんや次期経団連会長の十倉雅和さん、片山象三市長らが

る。

取り壊しから一転 卒業生の声で保存

耐震性が低いとして2013年に取り壊しが決まったが、市民や卒業生の働き掛けで15年に保存・改修が決まった。耐震補強し、児童が自由に使える「コモンスペース」や冷暖房が整備され、19年に改修が終了。現在は児童400人が通う。改修工事の責任者だ



重要文化財に指定するよう答申された西脇小第一校舎内にある教壇を残した教室―足立裕司氏提供

った足立裕司・神戸大名倉教授は「親しみやすく温かみがある現役の木造校舎は珍しい。再生した西脇小の事例が全国の学校建築の参考になってほしい」と話す。指定されれば西脇市では初めての重要文化財で、片山市長は「今後も校舎として活用する。市のシンボルとして、子どもたちが誇りと夢を持つことを願っている」とコメントした。

西脇小校舎3棟 国重文へ

西脇市で昭和初期に建てられ現在も校舎として使われる旧西脇尋常高等小学校(現・市立西脇小)の木造2階建て校舎3棟を、文化審議会が21日、国の重要文化財に指定するよう文部科学相に答申した。昭和初期の木造学校建築の姿を維持する現役校舎として、歴史的価値が高いとされた。指定されれば、現役の小学校校舎としては3例目。

市教委に答申。耐震補強やバリアフリー化が施された。西脇市生活文化総合センターの担当者は「当時の一般的な小学校が、現役で残っていること自体が珍しい」と話す。

県内から建築物の重文が指定されるのは、2018年に指定された高座神社本殿(丹波市)以来3年ぶり。県内110件268棟となり、西脇市内では初の指定となった。

(武田 遼)

1階東階段



南側からみた第一校舎＝いずれも足立裕司・神戸大名誉教授提供

県教委などによると、同校の第一校舎は、1934年(昭和9年)に完成。第二、第三校舎は37年(同12年)に第一校舎と並立する形で造られた。第二、第三校舎は、34年の室戸台風を契機に全国的に高まった耐久性の強化の流れを受けて、校舎内の柱と梁を斜めに補強材で強化している。県教委は、同年代でも災害の前後で建て方が異なることを示す貴重な例だという。簡潔だが上品な洋風調の外観も評価された。第一校舎正面にある車寄せの屋根は、途中で傾きが変わる「腰折れ屋根」で、外壁や窓には色の異なる縦線や横線を生かす意匠が採用されている。



教室

文化審答申 昭和初期の木造建築 今も現役

同校は一時、取り壊しの危機にも直面した。2012年度に耐震調査で大規模な補修が必要とされて建て替えが検討されたが、卒業生らを中心に反対意見が広がり撤回された。市の検討委員会が15年に建物を残すよう



国の重要文化財に指定される見通しとなった西脇市立西脇小の校舎3棟(手前)＝西脇市教委提供

西脇小木造校舎 重文に

文化審答申 現役では全国3例目

昭和初期に建てられた西脇市立西脇小学校の木造校舎3棟（写真）（同市提供）

が、国重要文化財に指定される。国の文化審議会が21日、指定を答申した。現役の小学校舎が重文になるのは県内初で、全国3例目。自治体の文化財指定を経ずに一足飛びで重文となるのは異例だ。当時の典型的な形式を今に伝える校舎が、学校建築の発展過程を示す重要な文化財だと評価された。

指定されるのは、昭和9



〜12年に建設された旧西脇尋常高等小学校舎3棟。いずれも木造2階建てで、3本の渡り廊下で並列につながっている。南正面には、三角形をした半切妻造の屋根を持つ車寄せを設けるなど、上品な洋風の意匠でまとまっている。

3棟に加え、渡り廊下などの付属施設、石造の正門も合わせて指定される。

校舎外観の設計は、地元的设计者・内藤克雄（1890〜1973年）が担当。平成20年、風景観形成重要建造物に指定されたほか、グッドデザイン賞などさまざまな評価を獲得したが、同市や県の指定文化



木造校舎の南正面に設けられた特徴的なデザインの車寄せ—西脇市立西脇小

財、国の登録文化財にはいずれもなっていないかった。

同校舎については、老朽化や耐震性の面などから建て替えの必要性も指摘されたが、市は平成29年度〜令和元年度に保存改修工事を行い、耐震補強やバリアフリー化などを進めた。

保存改修工事を主導した足立裕司・神戸大名誉教授は「西脇小の再生事例が、各地の保存活動の参考になつてほしい」とコメント。

自身も卒業生の片山象三市長は、美術家の横尾忠則さん、次期経団連会長の十倉雅和・住友化学会長と、その弟でノーベル賞有力候補とされる十倉好紀・東大卓越教授（特別栄誉教授）らOBの名を挙げ、「大切に活用しながら後世に受け継ぎ、子供たちが誇りと夢を持ってほしい」と話した。